

尼崎市立歴史博物館第4回企画展 「むかしのくらし むかしの小学校」を開催します

一昨年10月10日に開館した尼崎市立歴史博物館では、年間3回程度、歴史博物館が収蔵する博物館資料を活用した企画展を開催しています。

1月8日から開催する第4回企画展では、電化製品が普及しはじめたころの少しむかしのくらしの道具と、日本に小学校の制度ができた明治初期から終戦までの尼崎の小学校のあゆみを紹介する展示を行います。会期中、昭和8年（1933）の小学校の様子を撮影した貴重な記録映像と、平成29年（2017）に尼崎市内で撮影した「おくどさん」を使った炊飯の記録映像を常時上映します。

1 会期・時間

令和4年1月8日（土）～3月27日（日）

午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

月曜日休館（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日の火曜日が休館）

2 会場

尼崎市立歴史博物館 3階 展示学習室

（尼崎市南城内10番地の2 阪神電鉄尼崎駅より南東へ徒歩約10分）

3 主な展示資料

(1) むかしのくらし

- ・氷冷蔵庫（昭和30年代から使用されていた氷で冷やす木製の冷蔵庫）
- ・真空掃除機（昭和6年に製造された国産第一号の電気掃除機）
- ・自動式電気釜（昭和30年に販売開始された世界初の電気炊飯器）
- ・トリネスコープカラー受像機（昭和38年に開発された簡易型カラーテレビ）
- ・動画映像「尼崎のおくどさん」

(2) むかしの小学校

- ・小学読本（明治6年に改訂発行された初めての小学校用国語の教科書）
- ・摂津地誌略（明治12年に発行された旧尼崎藩士が編纂した地理の教科書）
- ・国定教科書（大正から昭和戦前期に国が発行していた小学校の教科書）
- ・疎開先を思い出して描いた絵（昭和19年に集団疎開したころを思い出して描いた絵）
- ・動画映像「我が学校」

4 展示資料点数

約50点

5 動画の常時上映

昭和8年（1933）に撮影された、尼崎第三尋常小学校（戦後の学制改革後の尼崎市立開明小

学校)の実写記録映像「我が学校」と、平成29年(2017)に撮影した、尼崎市内の民家で「おくどさん(かまど)」を使って実際に炊飯している様子の動画映像を展示会場で常時上映します。

6 観覧料

無料

7 担当

尼崎市教育委員会 社会教育部 歴史博物館 担当学芸員：桃谷和則

〒660-0825 尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801 FAX 06-6489-9800

以上

尼崎市立歴史博物館第4回企画展

むかしのくらし むかしの小学校

令和4（2022）年1月8日（土）～3月27日（日）

尼崎市立歴史博物館 3階 展示学習室

電化製品が普及し始める昭和30年代頃の少しおましのくらしの道具と、明治から昭和戦前の小学校の歩みを紹介する展覧会です。昭和8（1933）年に尼崎市内の小学校の様子を撮影した実写映像と、平成29（2017）年に尼崎市内で撮影した「かまど（おくどさん）」を使った炊飯の記録映像を、展示会場で会期中常時上映します。どうぞご観覧ください。



クイズにチャレンジ!

「これって何につかったのかな?」のコーナーに展示している道具の使い方を選んでいただき、ワークシートに答えを記入して1階事務室まで持ってきてください。全問正解した方には、プレゼントがあるよ!。チャレンジしてみてね。

※プレゼントは1人1回だけです。

先着100名で締め切ります。



会期中に展示替えを行うことがありますので、本パンフレット掲載資料が展示されていない場合があります。

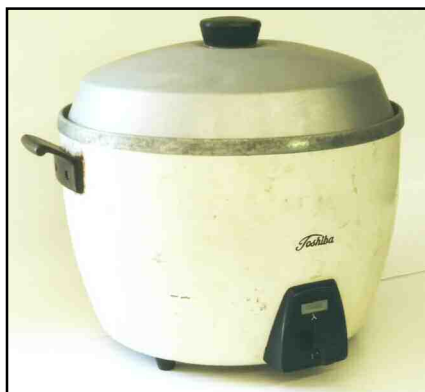
第1章 むかしのくらし

第1章では、今から約60年前の昭和30年代頃に日本が高度経済成長を迎え、家庭生活のなかに電気が普及していった時代に使用されていた家電製品を中心に展示しています。例えば、ご飯を炊くときには、かまど（おくどさん）に火を起こして羽釜で炊いていたものが、電気釜（炊飯器）の発明・普及によって、火を起こさず、また火の管理も行わずに、スイッチを押すだけでご飯が炊けるようになり、家事労働が大きく軽減されました。また、電話機やラジオ、テレビなどの普及によって、人びとの通信や情報収集の方法、娯楽の有り方が大きく変化していったのもこの時代であり、現在のわたしたちの生活の原型が形成されていった時代でした。



真空掃除機

昭和6(1931)年に販売が開始された国産第1号の電気掃除機です。吸引部には走行車輪が付き押すだけで掃除できました。



自動式電気釜

昭和30(1955)年に販売開始された電気炊飯器の世界第1号です。スイッチひとつで自動的に炊飯ができる電気釜の登場は家事労働を大きく軽減し、1千2百万台以上を売り上げ、当時の全家庭の約半数にまで普及したという大ヒット商品でした。



アマコー扇風機

尼崎に所在した家電メーカーの尼崎精工が昭和30年頃に製造した4枚羽の扇風機です。尼崎精工(後のアマコー電機)は素材メーカーが多い尼崎では珍しい家電メーカーでした。



真空管ラジオ

昭和30(1955)年に販売が開始された真空管ラジオです。スピーカー部分が白色のパネルで、その優雅なふんいきから「マドンナ」の愛称で呼ばれていたそうです。



トリネスコープカラー受像機

白黒テレビのブラウン管を代用した昭和38(1963)年製の簡易型カラーテレビです。ブラウン管が縦に3台並ぶので奥に長い形をしています。

翌年の東京オリンピックをカラー放送で見たいという需要を見越して製造されたカラーテレビで、価格は9万6千円でした。これは当時の大卒国家公務員初任給の約5か月分でした。



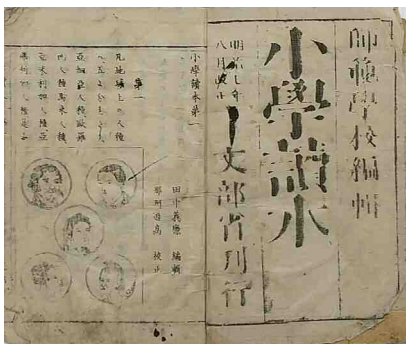
画面は小さいのに値段が高くてビックリです



第2章 むかしの小学校

第2章では、明治5（1872）年の学制制定から昭和20（1945）年の終戦までの小学校の歴史を紹介します。現尼崎市域では学制制定の翌明治6年（1873）から小学校の開校が始まりましたが、明治初期の小学校は教科書も難しく、半年ごとに進級試験があり学費も必要でしたので就学率は伸びませんでした。明治33（1900）年に尋常小学校4年間が義務教育となり学費も廃止されたので、ほとんどの児童が尋常小学校に就学するようになりました。明治36（1903）年には国定教科書制度が始まり、大きく分類して5回、国定教科書は改訂されました。昭和9（1934）年9月の室戸台風で木造校舎に大きな被害が出た尼崎では、これを契機に校舎の鉄筋コンクリート化が進みました。工業都市として発展し人口が増加していた現尼崎市域南部の小学校は巨大化し、児童数が3,000人を超えるマンモス校もありました。

昭和16（1941）年には長年親しまれた小学校の名称が国民学校に改められ、教科書も軍事色・国家色を反映した内容になり、昭和19（1944）年には学童集団疎開^{そかい}が始まり、尼崎の児童たちは兵庫県の北部・東部に集団で疎開していきました。



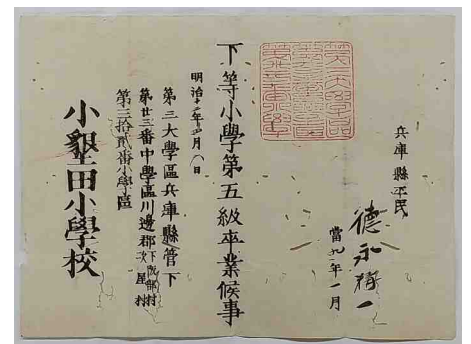
小学読本

学制が制定され全国に小学校が開校した明治6（1873）年に文部省は下等小学用の国語の教科書を刊行しました。アメリカの教科書を翻訳したものです。（展示資料は翌年発行の改訂版）



撰津地誌略

明治12（1879）年に発行された旧撰津国の地理を学ぶための小学校の教科書で、旧尼崎藩士の久保松照映が編纂したものです。久保松は尼崎町長を務めたこともある人物です。



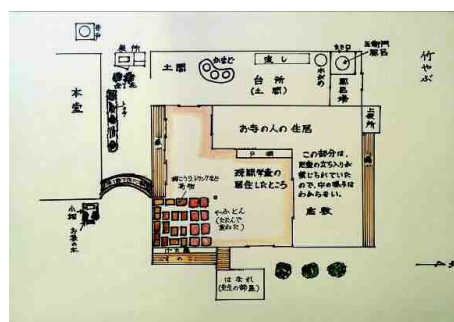
下等小学五級卒業証書

明治12（1879）年に発行された下等小学五級の卒業証書です。当時、小学校は下等4年、上等4年となっており、下等5級は現在の小学校3年生前半にあたります。



第三期国定教科書

大正7（1918）年から使用された第三期国定教科書の1年生用の国語の教科書です。1ページの「ハナ」に続いて写真の2ページは「ハト」と続くので「ハナハト読本」と称されます。



疎開先の寺院の平面図

尼崎では、1944（昭和19）年から国民学校児童の集団疎開が始まりました。この絵は、集団疎開された方が、疎開時を思い出して描いた、疎開先の寺院の平面図です。

この方は、現在の兵庫県猪名川町に所在したお寺に集団疎開されました。食べるものがなくておかゆばかり食べていたので、地元の子供たちから「おかい（おかゆ）の子」とからかわれたそうです。

なぜ子供たちを疎開させたのかな？

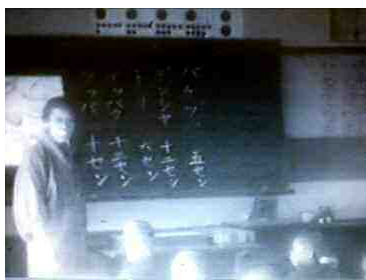
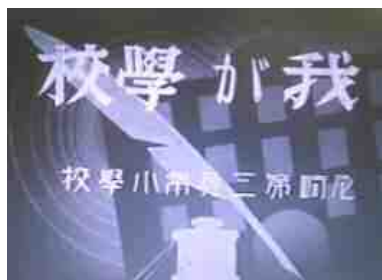


昭和8(1933)年の尼崎第三尋常小学校を撮影した記録映像上映

昭和8(1933)年に撮影された、尼崎第三尋常小学校(戦後の学制改革後の尼崎市立開明小学校)の実写記録映像「我が学校」を展示会場で常時上映します。

この年11月に同校で開催された兵庫県指定体育養護施設経営研究発表会で上映された映像で、平成3(1991)年に同校校長室の倉庫から16ミリフィルムが発見されました。

現在、元のフィルムは歴史博物館が所蔵しており、歴史博物館での上映用に映像をデジタル化しナレーションを入れました。時間は約24分間です。



平成29(2017)年に市内で撮影した「おくどさん」での炊飯の記録映像上映

平成29(2017)年に撮影した、尼崎市内の民家で「おくどさん(かまどをこの方はおくどさんと呼ばれていました)」を使って実際に炊飯している様子の動画映像を展示会場で常時上映します。早くから都市化した尼崎の南部地域で、平成29年に実際にかまどを用いて炊飯している方がおられたことから、その様子を記録化しておくことは、学術的・教育的に高い意義があると考え、記録映像を制作しました。なお、本映像は映像作家・立命館大学映像学部准教授藤岡幹嗣氏に制作していただきました。時間は約10分間です。



※この展示会は撮影可ですが、上映している動画映像を動画・静止画で撮影することは禁止です。

尼崎市立歴史博物館第4回企画展「おかしのからし おかしの小学校」展示解説

編集・発行 尼崎市立歴史博物館(文化財担当)

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内 10-2

電話 06-6489-9801

発行日 令和4(2022)年1月8日